

石神中学校だより18号

発行日：令和3年1月18日

2020重点目標〈自ら学び、夢の実現のためにやり抜く生徒〉 文責：校長 佐藤恭司

イギリスロセツト校との姉妹校交流

①石神日英交流の歴史について

石神中学校とイギリスロセツト校の姉妹校交流は、1987年（昭和62年）より英国羊毛公社の仲介によって始まりました。交流活動は、隔年に相互訪問を行っております。姉妹校となったきっかけは、中世騎士道の歴史を今に残しているハロゲート市のロセツト校が来日するのを機会に、英国羊毛公社が、馬に関連のある姉妹校を読売新聞社に依頼したことで



ロセツト校
(ハロゲート市)

した。福島県の新井市（現在の南相馬市新井区）に相馬野馬追があるということで新井市へ申し入れ、要請を受けた市は校長会で検討した結果、石神中学校が姉妹校活動を進めることとなりました。したがって、本校の国際交流活動は、地域性、特に騎士道、武士道の伝統文化を背景としているところに特色があります。

ハロゲート市は、人口約7万人でロンドンより約300 km 北上した所にあります。ロセツト校には、12歳から18歳までの生徒が所属しています。

②過去の石神日英交流の様子

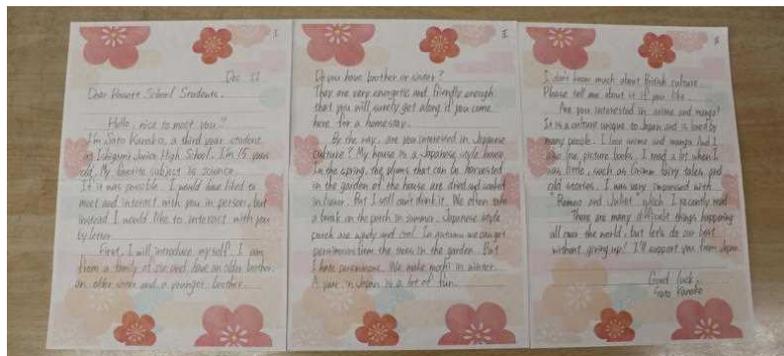
訪英交流では、ロセツト校の生徒の家へホームステイをしたり、博物館や街中へ一緒に出かけたり、市役所を訪問し、ハロゲート市についての説明を市長さんから受けたりしました。また、ロンドン市内での学習旅行も行いました。

本校生徒とロセツト校生徒の交流の様子



③令和2年度石神日英交流について

今年度は、新型コロナ感染拡大のために予定されていた訪英・訪日交流は中止とされました。そこで、手紙の交流活動を計画し、全校生徒から希望者を募りました。その結果、20名の生徒が心を込めて、英語で自己紹介、趣味、日本や学校についてなどの内容の手紙を書きました。また、文化祭の様子についての動画も送りました。12月28日に発送し、1月6日にロセット校へ無事に到着したとのことです。只今、イギリスではロックダウンになり、学校が閉鎖されているとのことです。世界的に様々な事が普段通りに行うことができずにいる状態ですが、国境を越えて互いに支え合って助け合う気持ちを育成していきたいと感じています。今後、ロセット校から情報が届きましたら紹介いたします。



本校生徒らが自分の思いや考えを手紙に書いて送りました

生徒に知って欲しい生活に役立つ“四字熟語”Ⅱです。

全身全霊 (ぜんしんぜんれい) 「全身」は体力のすべて、「全霊」は精神力のすべてで、身も心もすべてという意味です。一つの物事にまじめに取り組んだことを持ち上げるときに使うことが多いです。「全身全霊を傾けて、研究開発に取り組まれ～」というように使います。

ねがい 『身体測定』と『姿勢』から

3学期が始まり、生徒の身体測定が行われました。中学生ともなると身長伸びや体重増加など気になるものです。先生の記録時の声に一喜一憂するのが恒例となっています。ここ数年、気になるのが、視力低下です。授業を参観していると、目を細めながら黒板を見てノートを取る生徒も見られています。おそらく視力が低下し、見えづらいものと推察しています。早めに眼科を受診して、視力補正を行い、授業に臨んで欲しいと思います。さて、以前ある小学校を訪問した時の話です。児童の学習姿勢が気になりました。熱心に授業に取り組んでいるもののきちんと椅子に座れない子どもが多くいました。必然的に猫背の姿勢になり、本やノートの視線距離が近づいてしまいます。半分正座のような姿勢は、自宅の



こたつなどで勉強している場合も想像されます。中学校では、授業中や給食時、猫背になりがちな生徒も見られます。高校に進学してから治すのは容易なことではなく、早い段階での修正が必要と感じました。自宅でも出来るだけ子どもの身長に応じた机、椅子で学習すること、食事の時の正しい姿勢を意識づけることも大切だと思います。子どもの歩く姿勢や座る姿勢等、ご家庭でも観察等をお願いします。

参考例：左足を尻の下において座る児童

